

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行所:中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



当院の救急診療について

中部労災病院小児科 山田 政功



当院は、地域の医療として、救急医療（今話題の小児救急も含め）をきわめて重要な部門と考えています。

当院では、救急車で運ばれる方は全員、24時間救急室で診療させていただいております。

また、13:00以降に、予約以外で各科に受診される患者さまも、すべて救急室で診療させていただいております。

診療体制は、

- 1) 平日の8:15～17:00は、救急担当医、各科の当番医と看護師が患者さまの診療に当たらせていただいております。
- 2) 平日の17:00～8:15（夜間）・土曜・日曜・休日は、当直医4～5名（内科系1名、外科系1名、研修医2～3名）、看護師3名が患者さまの診察をさせていただき、必要とあれば各科の当番医師に連絡し診療に当たらせていただいております。

現在当院には、High Care Unit（HCU：集中治療室）、Cardiac Care Unit（CCU：循環器集中治療室）、Stroke Care Unit（SCU：急性期脳卒中集中治療室）が設置され、専門的集中治療を行っています。

以上のようにしっかりとした診療体制ですので、安心して必要時にご利用ください。

なお、救急車が続けて入ったり重症患者さまがあられますと、診察の順番が相前後したり遅くなったりしてしまうこともありますが、ご理解のほどお願い申し上げます。

今月号のお知らせ

- ①当院の救急診療について …………… 山田部長
- ②医師のページ
この冬のSARS、インフルエンザ流行に関して
…………… 竹原副部长
- ③看護師のページ
インフルエンザは予防が第一！

- ④医療スタッフのページ
「乳房のX線検査」
「言語聴覚士をご存知ですか？」
「この冬、放射線科に待望のニューフェイス登場!!」
- ⑤患者様&ボランティアのページ
- ⑥病院内の情報
講演会のご案内
災害訓練について
クリスマス・イルミネーション
編集後記



医師

この冬のSARS、インフルエンザ流行に関して

呼吸器内科副部長 竹原 木綿子

先般のSARS(重症急性呼吸器症候群: Severe Acute Respiratory Syndrome)の世界的な集団発生は、夏の間封じ込められていましたが、季節によって、SARSが再度流行するかどうかはほとんど分かっておりません。

呼吸器の病気には、気温や湿度が高い場合にはほとんど発生せず、気候が涼しくなると再度発生するようになるものがいくつもあります。

SARSとインフルエンザの症状は似ています。

発熱、関節痛、頭痛などの症状で発症し、乾いた咳や呼吸困難などが出てきます。

SARSの死亡率は、全体として14~15%(24歳未満1%未満、65歳以上50%以上)です。SARSの死亡者は今年7月の時点で全世界で800人弱です。一方インフルエンザは、季節的流行の間に毎年世界中で全人口の10~20%がインフルエンザに罹患し、その結果、300~500万人の重症例と少なくとも25~50万人の死亡がでています。

インフルエンザで死亡する人のほとんどは、肺炎を合併しやすい、高齢者、呼吸器の病気や腎臓や心臓などの慢性疾患を持っている人たちです。

インフルエンザワクチンは、例えば施設

内で看護を受ける高齢者において、インフルエンザによる死亡を80%、入院や肺炎の発生を50~60%、また、インフルエンザの発症を30~40%防止します。

インフルエンザを予防する最も有効な方法は、毎年インフルエンザ予防接種を受けることです。また、最近インフルエンザウイルスの増殖を抑える「抗ウイルス薬」が開発されました。ただし、お薬は発症後48時間以内に開始しないと効果がみられません。

現段階で、有効な診断法も治療法も確立されていないSARSに対して、また高齢の方や慢性病をお持ちの方にとっては死亡のリスクも高いインフルエンザに対して、私達のできることは、インフルエンザの予防接種、うがい、手洗いなどの自己管理、症状が出た時の適切な対処ということになります。

65歳以上の方、慢性病をお持ちの方、この冬未だの方はインフルエンザの予防接種をご検討下さい。



★「フィリア・レター」は、中部労災病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



季節の看護 ポイント情報

インフルエンザは予防が第一!

冷夏や猛暑、いつまでたってもやってこない冬。おかしな天候が続いていましたが、徐々に寒くなり、やっと本来の冬になってきました。朝夕の寒さに驚いていることと思いますが、皆様体調はいかがですか？

さて、冬になると風邪を引きやすくなります。又、例年インフルエンザという大敵もやってきます。インフルエンザは風邪とは症状は似ているがまったく違い、甘く見ると死に至ることもある怖い病気です。今回はそのインフルエンザについてのワンポイントアドバイスです。

インフルエンザと風邪の違いは？

普通の風邪は、症状として、熱が出る・のどが痛む・くしゃみ鼻水が出る・咳が出るなどで、病気が重くなることはありません。しかし、インフルエンザにかかると、風邪の症状にあわせて、39度以上の高熱や頭痛・関節の痛み・筋肉の痛みなど全身の症状が出ます。肺炎や、気管支炎をひきおこし、病気が重なることが多く、人にも移します。特に小児や高齢者に注意が必要です。

なぜ冬に多いの？

インフルエンザのウイルスは冬の乾燥した空気中が大好き！そして人も寒さと乾燥

した空気により、気管支などが弱くなるためです。

どんな予防法があるの？

流行前の予防接種が有効です。

予防接種を打っても、インフルエンザにかかることはあります。しかしかかっても症状が軽くすみます。

特に65歳以上の高齢者や小児は早めに予防接種を受けていただくことをお勧めします。

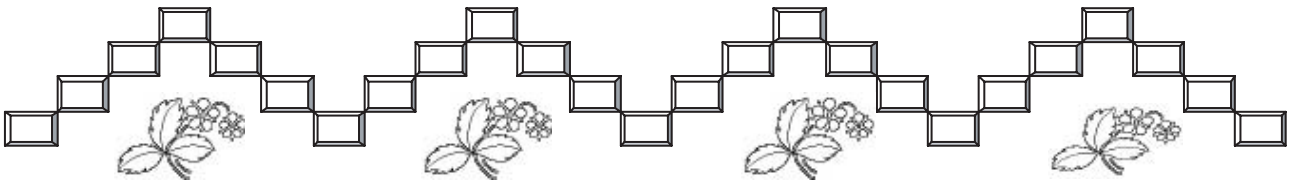
詳しくは当院の相談窓口・総合案内などでお聞きください。

日常生活では？

- ・外出の後のうがい・手洗い・洗顔（ウイルスがついていることがあるのです）
- ・室内を乾燥させない（加湿器などで室温、湿度を保ち、時々換気を行いましょ）
- ・流行期には人ごみに行かない
- ・体力を保ちましょ（バランスの取れた食事・十分な睡眠や休養）

おかしいな？と思ったら早めに受診してください。インフルエンザの治療は早めに開始すると症状を軽くすることが出来ます。また、受診の際はマスクの着用と、職員へ「インフルエンザかもしれない」との連絡をお願いいたします。

★中部労災病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉をご覧ください。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。



医療スタッフのページ

乳房のX線検査

乳房のX線検査のことをマンモグラフィといいます。
 乳房は体の表面にあり、また軟らかい組織でできているため撮影に適した専用装置を用いて撮影します。
 一般的には透明の板で乳房をはさみ、薄く引き延ばして強くおさえ、縦からと横からの2方向の写真を撮ります。圧迫による痛み(個人差があります)を多少ともないますが、しこりはもちろん、乳癌の初期症状の一つである微細石灰化もみつけることができる有用な検査です。
 早期発見、早期治療のためにも、定期的に検査を受けることをおすすめします。
 一度乳癌検診を受けてみてはいかがでしょうか？

言語聴覚士をご存知ですか？

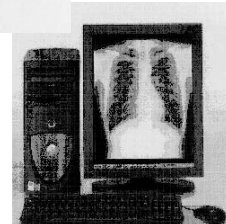
歌手の西城秀樹さんが脳梗塞で言葉が不自由になりましたが、リハビリをがんばり見事お仕事に復帰されました。

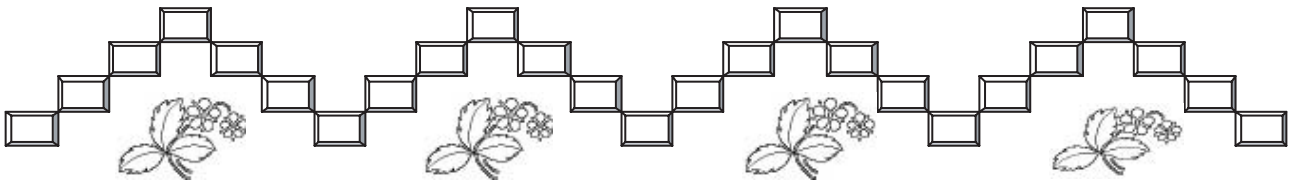
そんな言葉のリハビリを行っているのが言語聴覚士です。体と同じように顔や口の体操を行って話やすくなることや、食べ物が飲みこみやすくなることを目指しています。ご家族の方も一緒に口の体操をやってみませんか？ 皆でやれば楽しくできますし、もしかすると顔のシワやたるみが目立たなくなるかもしれませんよ。

この冬、放射線科に待望のニューフェイス登場!!

その名は、「デジタル画像システム」です。といってもなかなかピンとこないかもしれません。平たく言うと“デジカメ”です。近頃はカメラと言えばデジカメばかりで昔の銀塩フィルムはすっかり下火となってしまいました。レントゲン写真の世界も同様に主流はデジタル、いよいよ当院にも導入されることになりました。

- デジタルだから…画像が綺麗
 画像をコンピュータ処理しますので常に安定した見やすい画像を提供することが可能です。
- デジタルだから…早い
 画像を撮影直後にモニターで確認できるので、体動など写り具合のチェックがすぐ可能です。
- デジタルだから…安心
 従来の銀塩フィルムに比べ少ないX線で撮影が可能となり、より被曝を減らすことが可能です。
- デジタルだから…いつでもどこでもコンピュータ同士をつなぐと、レントゲン写真をいつでもどこでもモニター上で観察することが可能です。診察室のパソコンで見ていただく事も可能です。
- デジタルだから…災害に強い
 水を必要としないシステムなので地震等の災害時も電源さえ復旧すれば撮影が可能となります。





患者さまの声 Q&A

患者さまから頂いたご意見・ご要望とそれに関する病院の回答については玄関ロビーにも掲示しています。

Q 車椅子用駐車場がなくて、南側に路駐させられたのですが、雨が降ってきたのでぬれて車の所まで行かなくてはならなくなり困りました。

車椅子では傘もさせませんので、せき損の人が多く来る日はもっと車椅子用の駐車場を増やした方がいいと思います。

A 現在、当院におきましては、増改築工事のため、十分な駐車スペースを確保できない状況にあります。このため、入庫時の混雑や車椅子用駐車場の不足など、ご迷惑をおかけしております。

車椅子用駐車場につきましては、南側の駐車場を廃止し、管理の行き届く北側の駐車場に同台数程度の車椅子用の駐車場を設けることとしましたので、よろしく願います。

Q 外来にて1時間以上待った後、看護師さんから「今日は予約の方も待ち時間が長くなりますが、ご理解ください。」と説明があったので「お忙しそうなので、他の日に変更をお願いします。」と申し出をしました。看護師さんが新しい予約表を作っているのを待っていると、他の職員が「忙しそうじゃなくて、忙しいのよね。」と独り言のように耳元で言いながら通り過ぎていきました。あまりにもとげのある言葉に、非常にショックを受けました。

患者は苦痛と不安を抱えながら診察を待っています。待つことは我慢できます。しかし、医療従事者たる者にあのような人の神経を逆なでするような態度を取られることには、どうしても我慢なりません。

A 外来スタッフの一言で患者さまの心を深く傷つけてしまったことを、お詫び申し上げます。

ご指摘を真摯に受けとめ、今後患者さまへの言動には充分注意して取り組んでまいります。

また、9月5日に行いました外来患者さまへのアンケート調査の結果を、患者接遇、患者サービス等に反映させていきたいと考えております。

ご意見ありがとうございました。今後もお声をお聞かせ下さいませよう願います。

Q 2月に椎間板ヘルニアで受診。他の病院では見つけれなかったヘルニアを見つけていただき手術の運びとなりました。入院中は看護師さんの態度にもずいぶん助けられ現在にいたります。整形外科の先生方には、患者の小さなことにも耳をかたむけ親身になってくださることが、とてもうれしく思います。

A このような言葉を頂き大変励みになります。脊椎疾患で悩まされている多くの方々の手助けとなれるよう、これからも努力していきます。

病院ボランティア 四つ葉のクローバーの会



今年も地域の方の協力を得て、
玄関にクリスマス・イルミネーションが完成しました。
11月20日の点灯式には、名港保育園のかわいい園児たちの
合唱隊による歌声が響きました。



病院内の情報

講演会について

平成15年11月28日西築地コミュニティセンター会議室において小木曾第二外科部長講師による『外科の内視鏡下の手術について』の講演会を開催いたしました。参加された方々は、真剣に聞き入っておられ、医療に対する関心の高さをあらためて感じました。

災害訓練について

9月27日(土)トリアージ訓練を中心とした災害訓練を行いました。職員約300名、模擬患者として日本赤十字のボランティアの方や東海救急救命士の方などで、参加者は総勢約350名となりました。写真はその時の様子です。



クリスマス・イルミネーション

(内容は5ページにあります)



編集後記

ふと気がつけば、2004年の足音がすぐそこまで来ています。皆様にとって2003年はどのような1年だったのでしょうか？行事が目白押しこの季節は体調を崩しがちです。身体や心の叫びに耳を傾けてください。そして「終わりよければ全てよし」のことばで1年を締め括り、新たな年を迎えて頂ければと思います。